

GALE PRIMARY SOURCES

POLITICAL EXTREMISM
AND RADICALISM

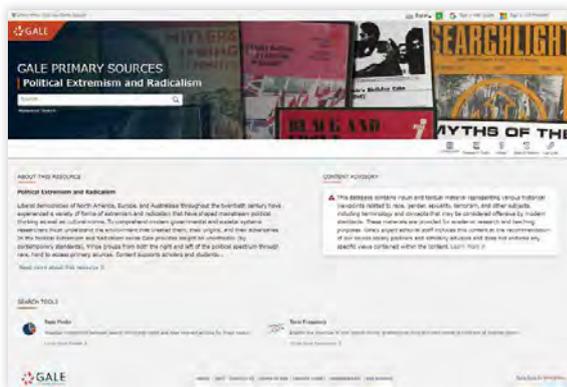
米国極右団体に関する一次資料44万ページを収録、
アメリカ政治の地下水脈を浮き彫りにするデータベース



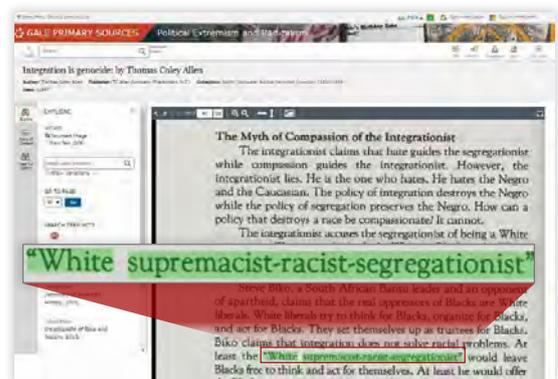
Political Extremism and Radicalism Far-Right Groups in America

Political Extremism and Far-Right Groups in America

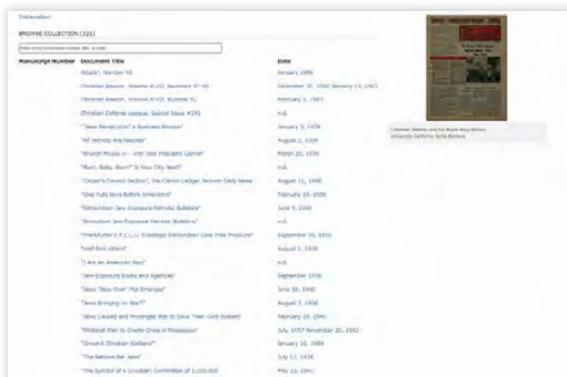
政治的急進主義に関する歴史資料を電子化して提供するデータベースシリーズ *Political Extremism and Radicalism* の第2集は、アメリカの極右団体、極右思想に関する一次資料約44万ページを収録します。アメリカ政治の周縁的存在として注目を浴びることがなかった極右団体が、トランプ政権を誕生させた政治的地殻変動の中で、メディアの表舞台に姿を現し、学問的関心を集めるようになりました。カトリック系移民を始めとする外国人の排除を主張したアメリカ党、白人至上主義のクー・クラックス・クラン、反社会主義や反共産主義を唱えたジョン・バーチ協会や反社会主義連合、移民流入規制を主張した米国移民規制財団、白人至上主義を唱え人種統合に反対した市民会議、反ニューディール運動を展開したアメリカ自由連盟、反ユダヤ主義を掲げたキリスト教国民十字軍等の極右団体が発行した刊行物や文書から、クリスチャン・アイデンティティ運動を展開した保守系キリスト教団体の刊行物、さらには保守・極右思想家の著作、極右団体や人物に関するFBIの文書まで広範囲に収録する本データベースは、19世紀以降米国社会に連綿と流れてきた極右思想の地下水脈を浮き彫りにします。



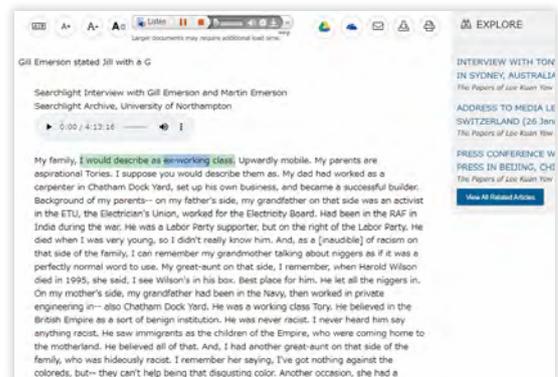
トップページ



一字一句までフルテキスト検索。検索語はハイライト表示。



コレクション毎に収録文書タイトル、年代を示した一覧ページが設けられ、各文書にハイパーリンクされています。



James Aho Collection に収録された音声ファイルのトランスクリプション。音声が始まると該当箇所がハイライト表示されます。



統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では追加コストなしで導入済の Gale の買切データベースとの横断検索ができます。



別契約の Gale Digital Scholar Lab ではテキストマイニングのツールをご利用になれます。この例はゴールドウォーターコレクションに関するトピックモデリングの分析結果を表示したものです。

データベースの概要

● 収録コレクション/収録資料/収録資料の年代/収録資料の言語/原資料所蔵機関

- ◆ 「クリスチャン・アイデンティティと極右政治 (Christian Identity and Far-Right Wing Politics)」 / 雑誌、パンフレット / 1920年代～2010年代 / 英語 / カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校
- ◆ 「FBI チャールズ・リンドバーグ関係文書 (FBI File on Charles Lindbergh)」 / タイプ打ち原稿、手書き文書 / 1939年～1956年 / 英語 / FBI 図書館
- ◆ 「FBI エズラ・パウンド関係文書 (FBI File on Ezra Pound)」 / タイプ打ち原稿、手書き文書 / 1941年～1946年 / 英語 / FBI 図書館
- ◆ 「FBI ジョセフ・マッカーシー関係文書 (FBI File on Joseph McCarthy)」 / タイプ打ち原稿、手書き文書 / 1942年～1974年 / 英語 / FBI 図書館
- ◆ 「FBI ポッセ・コミタートゥス関係文書 (FBI File on the Posse Comitatus)」 / タイプ打ち原稿、手書き文書 / 1973年～1986年 / 英語 / FBI 図書館
- ◆ 「ジェイムズ・アーホコレクション (James Aho Collection)」 / パンフレット、ニュースレター、新聞、新聞・雑誌の切り抜き記事、音声ファイル / 1937年～2008年 / 英語 / アイダホ州立大学
- ◆ 「ソーシャル・ドキュメンツ・コレクション (Social Documents Collection)」 / 新聞、雑誌、ニュースレター等 / 1936年～2017年 / 英語、スペイン語 / アイオワ大学
- ◆ 「ウォルター・ゴールドウォーター急進パンフレットコレクション (Walter Goldwater Radical Pamphlet Collection)」 / パンフレット / 1844年～2012年 / 英語、スペイン語、イタリア語 / カリフォルニア大学デイヴィス校

- **機能** : ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google / Microsoft ログインとクラウド連携を実装

解題 (英語)

- ◆ 「オルトライトの急進的根源」(ジョシュ・ヴァンディヴァー、ボール州立大学)
- ◆ 「米国における白人至上主義の過激主義と極右」(シンシア・ミラー-アイトリス、アメリカン大学)
- ◆ 「トランプ政権と極右政治の主流化」(オーレリアン・モンドン、アントニア・ヴォーン、バース大学)
- ◆ 「Social Documents Collection を収集し整理する」(ゾー・ウェブ、アイオワ大学)
- ◆ 「逸脱せし者のアーカイブ：ウォルター・ゴールドウォーターの急進パンフレットコレクション」(ニーナ・ゴンザレス、カリフォルニア大学デイヴィス校大学院生)
- ◆ 「James Aho Collection の解説」(ジェイムズ・アーホ、アイダホ州立大学名誉教授)

Political Extremism and Radicalism シリーズの他パート

Part I : Far-Right and Left Political Groups in the U.S., Europe, and Australia in the Twentieth Century

シリーズ第1集では、20世紀の急進的な政治的主張を掲げた団体・人物とその活動について、政治的な右派、左派を問わず光を当てます。地域的には、イギリスとアメリカを中心にヨーロッパ、オーストラリア、ラテンアメリカ、中東、アジアなど世界各地に及びます。報道・分析資料の主要なもの、極右団体を監視する目的で1970年代に創刊されたイギリスの雑誌 Searchlight です。Searchlight が反ファシスト活動家に対して行なったインタビューの音声記録も見逃せません。アメリカについては、公民権運動、反戦運動、学生運動、宗教右派、ニューライト等、政治運動の人物、団体、出来事に関する新聞・雑誌の切り抜きを項目ごとに収録しています。その他、戦間期、戦中期、戦後にかけてファシズムを主題にして刊行された書籍、パンフレットも多数収録されています。政府資料は、第二次大戦中のイギリスが公共の安全を脅かす恐れのある人物を予防拘禁した際の内務省文書、並びにイギリス情報局保安部が収集した極右や共産党系の人物の個人情報で、2010年代に機密解除されたファイルです。

Part III : Global Communist and Socialist Movements (2023年3月リリース予定)

シリーズ第3集では、19世紀から20世紀に至る世界の共産主義運動と社会主義運動を牽引した団体と個人に関する約86万ページの文書群を収録します。「急進雑誌コレクション」「ベリング・コレクション」「アル・リチャードソン/ジム・ヒギンズ文書集」「アラン・クリントン文書集」「ウィル・ファンシー文書集」「ステイブ・グレイム・コレクション」「バラージュ・ナジ文書集」「バルク・ハーソン文書集」「南アフリカ労働者党資料集」「チリとボリビアの政治パンフレット集」(以上、ロンドン大学図書館)、「独立労働党アーカイブ」「英国社会主義・労働運動パンフレット集」(以上、独立労働パブリケーションズ (ILP))、「反社会主義雑誌コレクション」(大英図書館)、「アメリカ旧左翼コレクション」(カリフォルニア大学デイビス校)、「ウォルター・リップマン文書集」「ローズ・パスター・ストークス文書集」「アンナ・ストルンスキー・ワーリング文書集」(以上、イェール大学図書館)、「アルジャー・ヒス弁護側資料」(ハーバード・ロー・スクール)、「アルジャー・ヒス文書集」(ニューヨーク大学タミネント図書館)、「アメリカ在郷軍人会関係文書集」(FBI 図書館) 等、英米を中心に南アフリカ、チリ、ボリビア、ハンガリー等、世界各国の運動をカバーします。

※収録コレクションは最終的なものではありません。変更の可能性がります。

第2集の収録コレクション一覧

▶▶ Social Documents Collection <アイオワ大学図書館所蔵>

第二次大戦中に外国政府により頒布された小冊子を保存したコレクションが起源で、その後、アメリカ外交政策の形成に関心を持つ国内団体の刊行物を蒐集保存するようになります。コレクションは、定期刊行物、小冊子、チラシ、ビラ、新聞、書簡、会報等で構成されています。第二次大戦後は、コレクションの重点が米国内の保守系団体、反共団体にも広がり、さらに1950年代、60年代には税制、州の権利から水のフッ素添加、社会主義医療、国連まで、広範囲の主題の資料が蒐集の対象になりました。保守系団体と親和性があったリバタリアン関係の資料も含まれています。収録ページ数は25万ページに及ぶ本データベース最大のコレクションです。

収録刊行物(例)

- | | | |
|------------------------------------|--|--------------------------------------|
| ◆ American Free Press | ◆ Christian Crusade Weekly | ◆ The Plain Truth |
| ◆ American Survival Party | ◆ The Citizen | ◆ Prophetic Herald |
| ◆ America's Future | ◆ Common Sense | ◆ R.E.C.E. |
| ◆ Armed Citizen News | ◆ Dan Smoot Report | ◆ The Remnant |
| ◆ Augusta Courier | ◆ The Freedom Press
(Drake's Freedom Press) | ◆ Research Reports |
| ◆ Baptist Bible Tribune | ◆ Manion Forum | ◆ Showers of Blessings |
| ◆ Christ Is the Answer | ◆ National Chronicle | ◆ Spotlight |
| ◆ Christian Anti-Communism Crusade | ◆ National Educator | ◆ Thunderbolt |
| ◆ Christian Crusade | | ◆ Truth and Liberty (America's Hope) |

▶▶ Christian Identity and Far-Right Wing Politics <カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校所蔵>

19世紀末以降、白人至上主義と反ユダヤ主義を唱え、クリスチャン・アイデンティティ運動を展開した保守系キリスト教団体の定期刊行物、小冊子、週刊紙、書籍を収録します。収録期間は20世紀初頭から2010年代まで、100年以上に及びます。

収録刊行物(例)

- | | | |
|----------------------------|--------------------------|---------------------|
| ◆ Attack! | ◆ The Confederate Leader | ◆ The Truth at Last |
| ◆ Christian Beacon | ◆ The Councilor | ◆ White Knight |
| ◆ Christian Defense League | ◆ The Crusader | ◆ White Patriot |
| ◆ Citizens Informer | ◆ The Klansman | ◆ White Power |
| ◆ Insaturation | ◆ The New Order | |
| ◆ Michael | ◆ The Thunderbolt | |

▶▶ Walter Goldwater Radical Pamphlet Collection <カリフォルニア大学デイヴィス図書館所蔵>

カリフォルニア大学デイヴィス図書館は1966年、急進政治とアフリカ系アメリカ人研究の分野の専門書籍取扱業者ウォルター・ゴールドウォーター(Walter Goldwater)のコレクションを購入し、図書館内に急進主義パンフレットコレクションを設置しました。その後、コレクションは拡充されることなく、目録も作成されないまま30年間放置されていましたが、1990年代になって目録作成法を編み出し、関連資料の蒐集を再開します。当初のコレクションは英米の左翼に関する資料が大半を占めていましたが、次第にチャールズ・カフリン(Charles Coughlin)など右翼思想家、19世紀後半から20世紀前半にかけての右翼の著述家の資料も加えられ、現在に至っています。

収録刊行物(例)

■宗教・反カトリック

- | | |
|---|--|
| ◆ フレデリック・ショバル 『ローマカトリックの迫害：ローマ教会の不寛容が引き起こした注目すべき迫害の歴史的説明』(1844) | ◆ ベン・フィリップス・レイノルズ 『自滅するローマカトリック教会』(1880) |
| ◆ 共和党議会委員会 『ドイツとアメリカにおける教皇権至上主義』(1876) | ◆ アイザック・ランシング 『国家統制に対するローマの公然とした決意と大都市における成功』(1892) |
| ◆ ニコラス・マレー 『ローマカトリックの衰退とその原因』(1851) | ◆ トマス・C.ライアン 『中立は虚偽である：逸脱と破滅のローマカトリックか、進歩と繁栄のプロテスタントか』 |

- ◆ ホワイトウェル・ウィルソン『マルティン・ルターの到来』
- ◆ メアリー・フランシス・クサク『革命と戦争：イギリスにおけるイエズス会の知られざる陰謀』（1910）
- ◆ トマス・エドワード・ワトソン『聖職者独身制が招く不可避な犯罪：修道院、女子修道会、牧師、尼僧の悪徳』（1916）
- ◆ ヘレン・ジャクソン『女子修道会の残虐』（1919）
- ◆ J.A. フィリップス『婚姻に関するローマ教会の立場』
- ◆ ジョン・ワルソー『イエズス会の知られざる指令』（1920）
- ◆ メルヴィル・R. グラント『アメリカニズム対ローマカトリック』（1921）
- ◆ ジョン・A. フィリップス『婚姻に関するカトリック教会の立場』
- ◆ ロバート・S. マッカーサー『サンバルテルミの虐殺：史上最大の悲劇』

■白人至上主義

- ◆ ウィリアム・トマス・リチャードソン『歴史上のプラスキー：サム・デイヴィスが処刑され、クー・クラックス・クランが生誕した地』（1913）
- ◆ アニー・クーパー・パートン『クー・クラックス・クラン』（1916）
- ◆ 『クー・クラックス・クラン騎士団の指導の下編纂された団員マニュアル』（1924）
- ◆ ベン・リンゼイ『我がクー・クラックス・クランとの闘い』（1925）
- ◆ アルマ・ホワイト『クランズマン：自由の守護者』（1926）
- ◆ 『クー・クラックス・クラン騎士団の憲法と法』（1926）
- ◆ 『クー・クラックス・クランの女性の憲法と法』（1927?）
- ◆ フランク・ボール『クー・クラックス・クランの功罪』（1927）
- ◆ トマス・ブレイディ『人種隔離と南部』（1957）
- ◆ 全米市民保護協会『FBIが明らかにする人種統合の脅威：黒人の犯罪の増加』（1957?）
- ◆ ミシシッピ市民評議会協会『ワシントン DC. で学校の人種統合が実施された時に起こったことに関する議会委員会報告』（1957?）

■ファシズム・ナチズム

- ◆ パーシヴァル・フィリップス『赤いドラゴンと黒シャツ：イタリアはいかにしてその魂を見出したか：ファシスト運動の真実』（1922）
- ◆ ジョージ・ラファロヴィッチ『ベニト・ムッソリーニ：予備的素描』（1923）
- ◆ ウォルター・フレデリック・ベッカー『イタリアのファシズムとその偉大な創始者』（1926）
- ◆ 『産業問題と社会主義者：ボールドウィン氏へのオズワルド・モズレーの回答』（1929）
- ◆ ジェラルド・パートン・ウィンロッド『ムッソリーニとキリストの再来』（1931）
- ◆ 『労働憲章：アルナルド・ムッソリーニによる序論と注釈』（1933）
- ◆ オズワルド・モズレー『ファシズムの解説：その政策の10の要点』（1933）
- ◆ アルナルド・ムッソリーニ『労働憲章：序説と注釈』（1933）
- ◆ アルフレート・ローゼンベルク『決定的世界戦争』（ドイツ語）（1936）
- ◆ ウィリアム・デューイ・ハーストロム『ムッソリーニとファシズム』（1937）
- ◆ オズワルド・モズレー『明日に生きる』（1938）

■反ユダヤ主義

- ◆ ルシアン・ウォルフ『世界情勢におけるユダヤ人の脅威という神話、あるいは捏造されたシオン賢者の議定書の真実』（1921）
- ◆ マーシャル・ゴーズヴィン『ユダヤ人は文明に対する脅威か』（1922）
- ◆ 『ユダヤ人の宗教的屠殺』（1923?）
- ◆ アーヴィング・ポッター『アメリカにおける反ユダヤ主義の原因』（1933）

- ◆ アーネスト・フィリップス『ローマ、婚姻、貨幣』（1923?）
- ◆ イーディス・オゴーマン『暴露された女子修道会の生活：ミス・イーディス・オゴーマンの裁判と迫害』（1923）
- ◆ ジョシップ・ストロスマイヤー『教皇の無謬性への挑戦』
- ◆ ウィリアム・ロイド・クラーク『仮面を剥がれたコロンブス騎士団』
- ◆ ウィリアム・ロイド・クラーク『ローマによって掌握されたワシントン』
- ◆ ウィリアム・ロイド・クラーク『若いアメリカ人のためのプロテスタントの教理提要』
- ◆ 『アプトン・シンクレアのモルモン教会論』（1934?）
- ◆ 『アプトン・シンクレアのキリスト教論』（1934?）
- ◆ プロテスタント真理協会『バチカンとファシズム』（1935?）

- ◆ オースティン・バージェス『人種統合など無意味だ』（1957）
- ◆ カー・シャノン『人種統合に関する最高裁判決は違憲である』（1958）
- ◆ ウェズリー・クリッパ・ジョージ『人種、遺伝、文明：人間の進歩と人種問題』（1961）
- ◆ ウェズリー・クリッパ・ジョージ『人種問題の生物学』（1962）
- ◆ チャールズ・コナント・ジョシー『人種的偏見に関する探究』（1965）
- ◆ メドフォード・エヴァンズ『公民権の神話と共産主義の現実』（1965）
- ◆ H.B. イシャーウッド『人種統合：台頭する有色人種』（1966）
- ◆ H.B. イシャーウッド（人種保存協会）『宗教と人種論争：教会の間違ったプロパガンダ』（1970）
- ◆ W. ジェファーソン・デイヴィス『ウォーレン・コートにおける司法革命と先例拘束性原則の終焉』（1971）

- ◆ ベニト・ムッソリーニ『ファシズムの教義』（英訳）（1938）
- ◆ ジョン・T. フリン『ヒトラーはアメリカを侵略できるか』（1941?）
- ◆ ヴァルター・グロス『ユダヤ人問題の解決のための人種政治的前提』（1943）
- ◆ J.J. マーフィー『イタリアの教権ファシズム』（1944）
- ◆ J.J. マーフィー『フランスの教権ファシストの裏切り』（1944?）
- ◆ 『ロスアンゼルスにジェラルド・L.K. スミスへの対抗：自国のファシズムと闘った都市の物語』（1945?）
- ◆ J.J. マーフィー『アルゼンチンの教権ファシズム』（1946?）
- ◆ レオン・ギルバート・ハルデン『赤いファシズム』
- ◆ ケネス・ゴフ『ヒトラーと20世紀のでっち上げ』（1954）
- ◆ ダーウィン・エルダー『代用を認めない：ヒトラーの語られざる物語』（1966）
- ◆ 『アドルフ・ヒトラーの証言：ヒトラー・ホルマン文書』（L. クレイグ・フレイザー序文）（1978?）
- ◆ 『ヒトラー、アメリカに語りかける：『我が闘争』からの抜粋』（1980）
- ◆ リチャード・アラン・ホジソン・ロビンソン『ファシズム：国際的現象』（1995）

- ◆ セルゲイ・ニルス『シオン賢者の議定書』（英訳）（1936）
- ◆ ジョセフ・ネスター・ムーディ『なぜユダヤ人は迫害されるのか』（1938）
- ◆ ジョン・フランク・ノリス『ユダヤ人が議定書を書いたのか』（1938?）
- ◆ ジェラルド・ライマン・ケネス・スミス『政府におけるユダヤ人』（1951）

- ◆ ジャック・ブレッキンリッジ・テニー『シオニストのネットワーク：テニー報告』（1953）
- ◆ アメリカユダヤ人委員会『行動に起こされた頑迷固陋：今日のアメリカにおける組織的反ユダヤ主義』（1958）
- ◆ ロン・ゴスティック『シオニズムと中東危機』（1962）
- ◆ ビル・グリムスタッド『裁かれるユダヤ人：ユダヤ人に関する歴史上の人物 330 人による証言』（1973）
- ◆ 『なぜユダヤ人は憎まれるのか』（1977）
- ◆ マーガレット・ヘダーセン『アメリカにおける検閲：私はユダヤ人を告発する』（1978）
- ◆ ジェイムズ・E. コンブ『世界シオニスト陰謀人名録』（1978）
- ◆ 『世界の事件におけるシオニストの役割』（1979）
- ◆ アニー・ホーマー『ユダヤ主義とポリシェビキ主義』
- ◆ J.B. ストナー『キリストはユダヤ人にあらず、ユダヤ人は選ばれし民にあらず』
- ◆ レオナード・ゼスキンド『クリスチャン・アイデンティティ運動：人種差別と反ユダヤ主義のための神学的正当化』（1986）
- ◆ デス・グリフィン『反ユダヤ主義とバビロニア・コネクション』（1988）
- ◆ ヘンリー・H. クライン『シオニズムが世界を支配する』
- ◆ ゴードン・モア『ユダヤ人、ユダヤ教、シオニズムに関してキリスト教徒が知っておくべきこと』
- ◆ チャールズ・A. ワイスマン『ユダヤ人のアイデンティティ』（1997）

■反社会主義・反共産主義

- ◆ ジョセフ・リッカビー『社会主義』（1898）
- ◆ マーシャル・I. ボアマン『社会主義の告発』（1904）
- ◆ サミュエル・ストーリー『社会主義論』（反社会主義連合）（1910）
- ◆ H. マッケイル『賃金の国家統制』（反社会主義連合）（1911）
- ◆ ジョセフ・メレット『破綻する運命にある社会主義国家』（1914）
- ◆ ジョン・ヘンリー・エクテリング『暴かれた社会主義』
- ◆ FR. ウェルシュ『アメリカ最大の危難：ポリシェビキとムーニー事件』
- ◆ ハーバート・V. キーリング『ありのままのポリシェヴィズム：目撃者の物語』（1920）
- ◆ ジョン・ヘンリー・クラーク『白人労働対赤』（1922）
- ◆ ウッドワース・クラム『大学キャンパスから社会主義者を根絶する』（1922?）
- ◆ ハーミン・シュウェッド『社会主義者の仮面舞踏会と参加者たち』（1923?）
- ◆ アーサー・シュレプ・スピリドビッチ『秘密の世界政府、隠された手』（1926）
- ◆ モード・ハウ・エリオット『無神論は世界を支配するか』（1931）
- ◆ ジェイムズ・クリーリー『ロシアにおける神への戦い』（1931）
- ◆ アドルフ・エールト『ドイツの共産主義：国民革命前夜の共産主義者の陰謀に関する真実』（1933）
- ◆ 『アプトン・シンクレアによる星条旗と憲法に対する公然の侮辱』（1934?）
- ◆ マーティン・ルーサー・トマス『アプトン・シンクレアの正体を暴露する』（1934?）
- ◆ 『アプトン・シンクレアが革命と共産主義を伝道している証拠』（1934）
- ◆ チャールズ・カフリン『労働、資本、正義に関する 8 講』（1934）
- ◆ チャールズ・カフリン『失業の問題：講義』（1934）
- ◆ ウィリアム・ヘンリー・チェンバリン『ロシアよさらば』（1934）
- ◆ レイモンド・フィーリー『共産主義と道徳』（1935）
- ◆ チャールズ・カフリン『社会正義と共産主義：講義』（1935）
- ◆ 商務省『アメリカにおける破壊活動と闘う』（1935?）
- ◆ デマレスト・ロイド『ニューディールにおけるフェビアン社会主義』（1935）
- ◆ アロンゾ・ラファイエット・ベイカー『世界は赤化しているのか』（1935）
- ◆ マーティン・ルーサー・トマス『内在する共産主義の危機』（1935）
- ◆ ハリー・マクデヴィット『共産主義とアメリカの若者』（1936）
- ◆ フルトン・シーン『共産主義の戦術』（1936?）
- ◆ 商務省『集産主義や専制と比較したアメリカ経済制度』（1936）
- ◆ アレクセイ・リベロフ『私は共産主義者だった：ソビエト・ロシアの物語』（1936）
- ◆ ジョージ・デューイ・ブロングレン『赤禍と黄禍』（1937）
- ◆ ヘンリー・カボット・ロッジ『共産主義者によるアメリカ労働運動掌握の試み』（1937）
- ◆ ヘルマン・グライフェ『ソビエト・ロシアにおける奴隷労働』（英訳）（1937）
- ◆ 国際思想研究会『極東における日本のポリシェヴィズムとの闘い』（1937）
- ◆ 『教会と無神論的共産主義：教皇ピウス 11 世の 1937 年の回勅の摘要』（1937）
- ◆ ウィリアム・ジョセフ・スミス『アメリカ人が共産主義者か、両方を選ぶことはできない』（1938）
- ◆ エヴァレット・コンウェイ『戦時下のスペイン：スペインの国際共産主義との死の闘争に関する真正な説明』（1939）
- ◆ アーサー・ネルソン・フィールド『なぜ大学は共産主義者を繁殖させるのか』（1941）
- ◆ ダン・ギルバート『高校の教科書における非米主義』（1942）
- ◆ レイモンド・トマス・フィーリー『今日の共産主義、あるいは赤いファシズム』（1945?）
- ◆ 商務省『アメリカへの共産主義の潜入：その本質とそれと闘う方法』（1946）
- ◆ 商務省『政府内部の共産主義者』（1947）
- ◆ 商務省『労働運動内部の共産主義者』（1947）
- ◆ リチャード・ハーシュ『ソビエトのスパイ：北米におけるロシア人のスパイ活動の物語』（1947）
- ◆ 下院非米委員会『アメリカの共産主義に関する 100 の事実』（1948）
- ◆ 共産主義と闘う全米会議『共産主義と闘う 12 の方法』
- ◆ 下院非米活動委員会『アメリカの共産主義に関して知るべき 100 の事柄』（1948）
- ◆ ジョン・フリン『未来の道：忍び寄るアメリカの革命』（1949）
- ◆ スタンリー・ジョージ・エヴァンズ『ミンツェンティ枢機卿の裁判：目撃者の説明』（1949?）
- ◆ マイロン・フェイガン『名誉棄損防止連盟における共産主義者』（1950）
- ◆ マイロン・フェイガン『実証 ハリウッドにおける共産主義のスターたち』（1950）
- ◆ 『マッカーシー上院議員により暴露されたワシントンにおける背信』（1950）
- ◆ ジャック・ブレッキンリッジ・テニー『テニー委員会』（1952）
- ◆ ジョセフ・マッカーシー『ジョージ・マーシャル将軍の物語』（1952）
- ◆ ウィスコンシン市民委員会『マッカーシーの記録』（1952）
- ◆ 商務省『共産主義：我々は今どこに立っているのか』（1952）
- ◆ ロジャー・ナッシュ・ボールドウィン『新たな奴隷制：強制労働：共産主義による人権の裏切り』（1953）
- ◆ マイロン・フェイガン『ヤルタの真実』（1953）
- ◆ フレッド・シュウォーツ『共産主義、診断、治療：洗脳の物語：共産主義はどのようにして人々の精神を征服するか』（1955?）
- ◆ 中華民国アジア民族反共産主義連盟『「平和共存」という共産主義者の陰謀の研究』（1955）
- ◆ 『下院非米活動委員会により反体制的とされた 469 団体』（1957?）
- ◆ ウィリアム・マイヤー『共産主義者の洗脳：アメリカ人にとってのその重要性』（1957?）
- ◆ 下院非米活動委員会『反体制組織と刊行物案内』（1961）

- ◆ ケント・コートニー、フィービー・コートニー『エドウィン・ウォーカー陸軍少将事件』(1961)
- ◆ アラン・E. ウェスティン『ジョン・バーチ協会：右派の原理主義』(1961)
- ◆ マイク・ニューベリー『ファシズムの復活：ジョン・バーチ協会の内幕』(1961)
- ◆ ウィラード・クレオン・スクーセン『ジョン・バーチ協会への共産主義者の攻撃』(1963)
- ◆ ジェイムズ・マカヴォイ『ジョン・バーチ協会：共和主義革命のイデオロギー的源泉』(1964)
- ◆ スティルウェル・ジョン・コナー『カトリック教会とジョン・バーチ協会』(1964)
- ◆ ブライアン・W. スティーヴンス『カリフォルニアの政治におけるジョン・バーチ協会』(1966)

■反移民

- ◆ マディソン・クリントン・ピータース『アメリカに必要なもの：少数で優良な移民』(1910?)
- ◆ ハイラム・ウェズレー・エヴァンズ『現代移民の脅威』(1924)
- ◆ ハイラム・ウェズレー・エヴァンズ『クー・クラックス・クラン騎士団の移民に対する態度』
- ◆ 全米州権利党『ユダヤ人難民：移民による米国侵略とその対処法』(1942?)
- ◆ ケアリー・ダニエル『アフリカの奪われた子供たちはアフリカに戻ろう：統合ではなく移民が答えだ』(1960)
- ◆ アメリカ愛国者協会連合『移民：我が国の開放政策』(1960)
- ◆ アメリカ移民政策委員会『我が国の移民法：あなたとあなたの仕事とあなたの自由を守れ』(1964)
- ◆ アメリカ移民政策委員会『我が国の移民制度：アメリカの過去と未来への鍵』(1964)
- ◆ ジョン・サンダース『移民：途方もない愚行』(1965)
- ◆ ジョン・サンダース『迷惑な移民が止まらない：有権者への公開状』(1965)

■反ニューディール

- ◆ デマレスト・ロイド『ニューディールにおけるフェビアン社会主義』(アメリカ自由連盟) (1935)
- ◆ ウィリアム・ハル・エリス『アメリカニズムの精神』(アメリカ自由連盟) (1935?)
- ◆ ラウル・ユージン・デスヴァーニン『立憲民主制とニューディールの原理』(アメリカ自由連盟) (1935?)
- ◆ ラウル・M. ショー『ニューディール：その不健全な理論と非妥協的な政策』(アメリカ自由連盟) (1935?)
- ◆ アメリカ自由連盟『全国復興庁：その過去の検証と未来への勧告』(1935?)
- ◆ アメリカ自由連盟『憲法の市民にとっての意味』(1936)
- ◆ ジュエット・シャウス『ニューディール対民主主義』(アメリカ自由連盟) (1936)

- ◆ キース・L. ウォーン『レーニン最後の砦：南カリフォルニアにおける共産主義者の乗っ取り』(1966)
- ◆ チャールズ・ハワード・エリス『イギリスの新左翼：新左翼の起源、発展、影響』(1968)
- ◆ デヴィッド・ウィリアムズ『1968年共産主義者世界青年祭典』(1968)
- ◆ G. エドワード・グリフィン『これがジョン・バーチ協会だ：入会への誘い』(1970)
- ◆ 世界反共産主義連盟『毛沢東主義の専制の真実』
- ◆ ジェイムズ・E. ブラドック『ジョン・バーチ協会：謎：最有力反共団体を暴く』(1991)

- ◆ G. パーマー・ステイシー、ウェイン・ラットン『移民という時限爆弾』(1985)
- ◆ ジョン・ルカーチ『歴史的に見た移民』(1986)
- ◆ アメリカ移民規制財団『不法外国人の危機に関するアメリカ市民の世論調査』(1987)
- ◆ ウェイン・ラットン『開かれた国境という神話：アメリカにおける移民規制の伝統』(1988)
- ◆ ローレンス・オースター『国民の自殺への道：移民と多文化主義に関する試論』(1990)
- ◆ ジョン・ヴィンソン『規制不能な移民』(1992)
- ◆ エドワード R. フィールズ『移民がアメリカの生存を脅かす』(1994)
- ◆ ウェイン・ラットン、ジョン・タントン『移民の侵入』(1994)
- ◆ 『セオドア・ローズヴェルトの人種、暴動、移民、犯罪論』(1996)

- ◆ ジェイムズ・アレクサンダー・リード『立憲的自由か専制か』(アメリカ自由連盟) (1936)
- ◆ アメリカ自由連盟『誤った情報と階級の偏見を喚起する試みによってしばしば曖昧にさせられる状況に関する事実に基づく分析』(1936)
- ◆ ジュエット・シャウス『新しい異端審問』(アメリカ自由連盟) (1936)
- ◆ ジョージ・M. マクセイ『憲法が市民に意味すること』(アメリカ自由連盟) (1936)
- ◆ チャールズ・カフリン『全米労働関係法：その歴史と修正案』(1939)



James Aho Collection <アイダホ州立大学所蔵>

ジェイムズ・アーホコレクションは、アイダホ州と米国北西部太平洋岸地域における極右の動向を記録した資料集で、新聞、ニュースレター、小冊子、広告、説教の録音等で構成されています。コレクションの中心は、種々の教会や団体が思想を広めるために発行したニュースレターと説教の録音です。

FBI File on Joseph McCarthy < FBI 図書館所蔵>

1950年代のマッカーシー上院議員の赤狩りを記録したFBIのファイルです。FBIがマッカーシーの告発をどのように観察し、どのように関与したかを克明に記録します。フーズァーFBI長官とマッカーシー以外の上院議員との書簡を収録しているのも特徴で、そこではFBIがマッカーシーに情報を提供したとの疑惑をフーズァーが繰り返し否定しているのが分かります。

FBI File on Charles Lindbergh < FBI 図書館所蔵>

チャールズ・リンドバーグは、史上初めて大西洋無着陸単独飛行を成し遂げ、名声を獲得したにも関わらず、その後は悲劇と論争に刻印された人生を送りました。単独飛行を成功させた5年後には、幼い子どもと妻が誘拐され、殺害されました。ナチスの軍事機構、とりわけ空軍の力を称賛したリンドバーグは、風雲急を告げる第二次大戦直前の時期、アメリカは中立を維持すべきだと説きました。1930年代と40年代をカバーするFBIのリンドバーグファイルは、ナチシンパとしてのリンドバーグの活動に焦点を当てます。

FBI File on Ezra Pound < FBI 図書館所蔵>

米国に生まれ、西欧諸国を遍歴した詩人エズラ・パウンドは、第二次大戦中滞在していたイタリアで、祖国の米国に向けてラジオ放送を通してファシズム思想の宣伝に精力的に携わり、戦後、米国政府から反逆罪で告発されました。パウンド自身は自発的にファシストのプロパガンダに関与したことを認めたものの、裁判を受けるに適さないとして精神病院に収容されました。第二次大戦期のパウンドの活動をカバーするFBIのファイルは、ラジオ放送のトランスクリプト、イタリア政府、ドイツ政府の高官との書簡、ヒトラーの覚書等を収録します。

FBI File on the Posse Comitatus < FBI 図書館所蔵>

ポッセ・コミタートゥスは1970年代初頭にオレゴン州で結成された極右団体です。「法を執行する地方の保安官の名の下に自発的に行動する」市民の集団として創設されたポッセ・コミタートゥスは、ユダヤ人、アフリカ系アメリカ人、保安官より地位が上の政府役人を憎悪の対象に定めていました。連邦政府を非合法と見なして侮蔑し、郡のレベルにのみ合法的権威を認め、納税者の反乱をも主導しました。1973年から1977年までの時期と1980年から1996年までの時期をカバーするFBIファイルは、ヘイトクライムの文献、爆弾事件、脱税裁判等、ポッセ・コミタートゥスの活動に関する文書を収録します。

◆注意◆

本シリーズに収録されている文献には、人種、民族、宗教、ジェンダー、セクシュアリティなどに関して、多くの人々に許容しがたい偏狭な見識や歪曲された主張が含まれています。これらの文献は学術研究や教育目的で提供されるもので、弊社は一切そうした主張に与するものではありません。



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける1ヶ月の無料トライアルをご提供しております。

商品に関するお問い合わせは、センゲージャーニング株式会社までお願いします。

Tel: 03-3511-4390 E-mail: GaleJapan@cengage.com URL: www.gale.com/jp